

皮膚科

a. 体制

2018年度中には、島医師、一ノ名医師が休職をとり、その代わりとして、2018年10月より足立医師、2019年3月より横山医師がそれぞれレジデント、医師として着任した。また2018年5月には古賀医師が副部長に就任した。今年度の診療体制の詳細は以下の如くである。

主任部長：

吉川義顕(京大 1991年卒、2017年4月～当院勤務)

副部長：

古賀玲子(岐阜大 2003年卒、2010年1月～当院勤務)

医員：

一ノ名晶美(金沢医大 2009年卒、2017年6月～当院勤務、現在は休職中)

山上優奈(大阪医大 2010年卒、2017年1月～当院勤務)

島香織(慈恵医大 2012年卒、2014年10月～当院勤務、現在は休職中)

横山恵里奈(大阪医大 2012年卒、2019年3月～当院勤務)

レジデント：

足立英理子(京大 2016年卒、2018年10月～当院勤務)

b. 診療実績

外来は前年度までと同様の診療体制、即ち水曜日を除く月曜日から金曜日までは、午前3診、午後2診とし、水曜日は午前2診、午後は外来手術、土曜は隔週午前1診で診療を実施している。

診療方針としては、主たる疾患群に関しては診療ガイドラインに準拠した診療を心がけ、さらに国際的なガイドラインも考慮しながら、基本はいわゆるEBMに根拠をおいた標準化された治療を念頭におくべきと考えている。

今年度の傾向としては、前年度と比較して延外来患者数は減少したものの、初診患者数、紹介患者数は増加した。一方で、延入院患者数、新入院患者数は前年度と比較し減少している(表:前年度との比較)。

診療実績の目立った特徴としては、生物学的製剤使用症例の増加が挙げられる。当科は乾癬の診療に重点を置いており、症例毎に症状、重症度、患者様の希望などを総合的に検討し、外用療法、内服療法、光線療法、生物学的製剤を適切に選択しながら治療している。2019年3月の時点で39例に対し生物学的製剤を使用中である。また、乾癬以外にも、アトピー性皮膚炎、特発性慢性蕁麻疹に対し、既存治療では効果不十分である場合には生物学的製剤を用いて治療してお

り、2018 年度には、14 例のアトピー性皮膚炎患者、9 例の特発性慢性蕁麻疹患者に対し生物学的製剤を使用し良好な結果を得ている。

入院患者の疾患内訳としては、細菌あるいはウイルス感染症が例年同様もっとも多く、その他、湿疹・皮膚炎群、蕁麻疹、薬疹、水疱症などが入院の対象となっている。具体的な入院患者数としては、蜂窩織炎・丹毒などの細菌感染症は 51 例、帯状疱疹は 37 例、水疱症は 4 例であった。

各疾患についての診療実績の具体例を挙げると、円形脱毛症に関しては、急性期で広範囲の場合には、入院のうステロイドパルス療法をおこなっており、今年度は 7 例の入院があった。慢性期の難治性で広範囲の脱毛症では SADBE 感作療法をおこなっている。その他、ステロイド局所注射、光線療法、外用療法、内服療法を組み合わせ治療している。皮膚の良性および悪性腫瘍の治療に関しては、当院形成外科と協力しながら最適な治療を選択するようにしている。今年度の当科での局所麻酔年間手術件数(含生検術)は 574 件であった。また、看護師専門外来であるフットケア外来と係を図り、皮膚潰瘍や爪囲炎の発症予防にも努めている。毎週木曜日の午後には皮膚科医師の他に、看護師、理学/作業療法士、管理栄養士、薬剤師、事務職を交えた院内の褥瘡回診を実施し、院内褥瘡発生率減少と褥瘡予防の啓発に向け活動している。保険外診療としては、男性型脱毛症治療、陥入爪に対する金属ワイヤー法を実施している。

皮膚科は外来処置の多い診療科であり、円滑に診療を行うために看護師、事務職などを含めたメディカルスタッフとのチーム医療の充実を心掛け、さらに医療安全の側面も常に念頭において日々の診療に従事している。

(表:前年度との比較)

	延外来患者数	初診患者数	紹介患者数	延入院患者数	新入院患者数
前年度	23,144	3,298	438	1,950	171
今年度	19,313	3,358	481	1,422	125

c. 研究実績

学会

- 1 横山恵里奈、兪 明寿、谷崎英昭、黒川晃夫 水疱が掌蹠に限局してみられ増殖性天疱瘡を疑った一例 第 467 回大阪地方会 2018/5/12 (大阪)
- 2 島 香織、山上優奈、一ノ名晶美、古賀玲子、石田祐也哉、吉川義顕 両下肢の非典型的な皮疹より診断に至ったサルコイドーシスの 1 例 第 111 回 近畿皮膚科集団会 2018/7/22 (京都)
- 3 足立英理子 本田哲也 野々山翔子 入江浩之 山村健太郎 大塚篤司 梶島健治 ペンブプロリズマブ投与中の肺癌患者に生じた重症水疱性類天疱瘡の 1 例 第 457 回 京滋地方会 2018/9/15 (滋賀)
- 4 山上優奈、島 香織、一ノ名晶美、古賀玲子、吉川義顕、戸田憲一 HIV 感染患者に発症した悪性梅毒の 1 例 日本皮膚科学会中部支部学術大会 2018/10/26-2 (大阪)

- 5 足立英理子、島 香織、山上優奈、一ノ名晶美、古賀玲子、日向麻耶、吉川義頭
中毒疹様皮疹を呈した血管芽球性 T 細胞性リンパ腫の 1 例 第 458 回京滋地方会
2018/12/8 (京都)

論文

- 1 島 香織、山上優奈、一ノ名晶美、櫻井弓子、戸田憲一、吉川義頭 免疫抑制患者に発症した *Mycobacterium abscessus* による播種性非結核性抗酸菌症の 1 例
臨床皮膚科 72 巻 9 号 713-716 頁 2018 年
- 2 ADACHI ERIKO, TETSUYA HONDA, SHOKO NONOYAMA,
HIROYUKI IRIE, KENTARO YAMAMURA, ATSUSHI OTSUKA,
KENJI KABASHIMA Severe bullous pemphigoid in a metastatic lung cancer
patient treated with pembrolizumab The journal of dermatology 発行 13
February 2019 DOI:10.1111/1346-8138.14813

研究課題

- 1 尋常性乾癬および類縁疾患における生物学的製剤使用を基盤とした集学的治療の有用性評価と最適化に関する研究 (吉川義頭、一ノ名晶美、山上優奈、島 香織、瀧 玲子)
- 2 円形脱毛症における標準的治療の最適な介入時期とアウトカムに関する研究 (吉川義頭、一ノ名晶美、山上優奈、島 香織)
- 3 蕁麻疹治療の選択性が臨床的効果へ及ぼす影響に関する研究 (吉川義頭、一ノ名晶美、山上優奈、島 香織、瀧 玲子)
- 4 アトピー性皮膚炎における標準的治療の有効性の臨床的評価方法に関する研究 (吉川義頭、一ノ名晶美、山上優奈、島 香織、瀧 玲子)
- 5 薬疹の重症度評価と治療選択に關与する予測因子の探索 (吉川義頭、一ノ名晶美、山上優奈、島 香織)